

◆6番（粟森愷君） 質問の機会を得ましたので、以下、数点、かなざわ議員会の一員として、私の視点から質問させていただきます。

質問の第1点目は、除雪体制の整備についてお尋ねいたします。

今ではもう春の雰囲気が出てきましたが、本年1月22日、夜半からの大雪で、国道8号線を中心に幹線道路が大渋滞となりました。天気予報の予想降雪量を上回り、一晩に金沢市内で約50センチメートルもの積雪を記録し、しかもその後も断続的に降り続いたため、不意をつかれた面もありますが、日常生活に大きな影響が出ました。地球温暖化が進んでいると言われる中、本市においてもここ数年暖冬傾向が続き、38、56豪雪のような積雪を伴う冬は訪れてはいませんが、今回程度の積雪で、北陸の経済、産業、文化の中心を担う金沢市が都市機能を失いかけているようですと、市民から不満の声が聞こえてくるのも当然のことと考えます。

金沢市の新基本計画、世界都市構想、マスタープランなどの中では、安全こそ最大の福祉という言葉を使い、災害対策を重視しています。災害時には市民生活の安全はもちろんのこと、都市機能を守ることが行政の重要な責務であり、防災対策に万全を期し、安全な市民生活の構築を求め、行政の組織と都市機能を絶えず見直し、緊急時におけるライフラインの確保と防災体制の強化を図っていかなければなりません。このことは、今回の雪害に対しても当てはまると思います。特に、今回の大雪に伴う除雪に関して言えば、25日に一斉除雪デーを設け、市民の協力を得ながら、市内全域で除雪に励みましたが、いざ除雪をしてみると、地域によっては排雪場所がなくなり、次にまとまった降雪が襲ったときにどうすればよいのかという声も多数聞かれました。確かに都市化や車社会の進展、雪に対する市民の認識の変化、高齢化など、時代とともに状況は変わっており、市民から理解と協力を得られる除雪計画をつくり上げることは、大変な作業ではありますが、新たな除雪対策計画を、金沢市の都市状況に最も適した形で策定する必要があると考えます。

本市では平成13年に除雪体制の一部見直しをされましたが、その見直しが今回の積雪に対する除雪作業に必ずしも十分に生かされていなかったのではな

いかと思います。そこで、前回見直しされた中で、今回効果があったもの、不十分な結果に終わったものは何か、また、今回の大渋滞を招いた最大の原因をどのように考えておられるのか、まず、お伺いいたします。なお、この冬の経験を踏まえ、来年度に向け必要な見直しをされると思いますが、重点課題は何か、見直しのスケジュールとあわせお伺いいたします。

その際、国、県との連携をさらに深め、能率的に除雪を行う体制の構築が必要ではないかと考えますが、国、県との連携のあり方についてどのように考えておられるのか、お伺いいたします。また、地域住民の不安を解消するためにも、除雪機材を有する業者が各町会に伝わるよう、本市のホームページに掲載するなど、周知の徹底を図る必要があると考えますが、いかがでしょうか。

大雪は大渋滞を招いただけにとどまらず、人身事故をも引き起こしました。それは車道を除雪した雪により歩道が埋まってしまい、歩行者が車道を歩けなくなり、車にはねられるという交通死亡事故でした。幹線道路に沿った歩道が通学路になっている箇所もあり、歩けるまちづくりを目指している本市としては、長期的に見ても無散水消雪装置などを利用して、連続した歩行空間の確保ができないものかお伺いいたします。

質問の2点目は、社会資本整備についてお尋ねいたします。

金沢市は市長を初め市民の方々の努力により、他の市町村以上に地域の特性を生かしたまちづくりを進めてきた近代的な城下町です。社会資本整備は、住みよい環境や利便性の向上など、都市形成のために必要不可欠な施策であり、今後とも市民生活の向上を中心とした投資が求められていると考えます。都市形成の変化を予測させる外環状道路山側幹線が平成17年度中には全線で開通し、今までにはなかったような新たな交通体系が訪れ、利便性が向上するのではないかと心待ちにしているところです。金沢駅周辺、新県庁周辺整備など、大規模な整備はここ数年でほとんど終わりますが、財政が厳しい中、今後、社会資本整備に寄せる市長の思いをお聞かせください。

そこで、住環境の整備に関し、犀川地区の道路についてお尋ねいたします。犀川地区は、犀川の上流に位置し、広範囲にわたり緑が広がり、自然に親しめる地域ですが、本市の中心部からわずか6キロメ

ートル程度しか離れておらず、地の利を得たところ
であります。そのためか、公共交通機関であるバス
の車庫もあり、間違いなく今後、金沢市の住宅地と
して発展する地域であると考えます。しかも金沢学
院大学、金沢東高校、金沢辰巳丘高校などの教育施
設が集中しており、夜間人口よりも昼間人口の方が
多いのではないかと思います。朝の交通量を見て
も、市中心部に向かう自家用車にも増して郊外に向
かう自家用車が目につき、住宅地であるにもかかわ
らず、日夜問わずにぎわいのある地域となってい
ました。新しい団地や県営住宅の建設等もあり、人口
も昭和49年の約 2,400人に対し、平成16年には約
5,600人と、徐々に増加してきました。

しかし、道路整備の面から見ると、まだまだ問題
が残っていると言わざるを得ません。地区の大動脈
である県道の現状は、片側1車線の車道に狭い歩道
が片側にあるだけの道路形態にもかかわらず、交通
量だけがふえています。また、隣まちである浅川、
内川地区は、人口が犀川地区よりも少ないにもか
かわらず、道路整備が進み、犀川地区でやっと整備さ
れ始める下水道も、浅川、内川両地区は、農業下水
道を含め来年度には 100%の完備となります。しか
も内川地区に残土の埋立場があり、両地区の道路整
備が着々と進んだため、道路整備がなされていない
犀川地区では、大型ダンプカーが通学路となってい
るような狭い生活道路でさえも通過し、歩行者が非
常に危険な状況にさらされていることも散見されま
す。辰巳地内では、普通車同士でさえすれ違いがま
まならない生活道路を、大型車が1日に 100台も行
き来している実態から、昨年8月31日から9月1日
にかけての集中豪雨で土砂崩れが発生したのは、大
型車の通行によって地盤が緩んだ結果ではないかと
地元住民が指摘をしています。住民の大切な生活道
路が失われかけました。本市の素早い対応により、
被害は最小限で済みましたが、これで問題が解決し
たわけではありません。問題は、大型車が通過でき
る道路が、浅川と内川の間になくことでもあります。
山間地ネットワーク道路の計画があるかと思いま
すが、今現在、天池町から末町、辰巳町を結ぶ区間
が未整備となっています。この区間の整備計画の見
通しについてお尋ねいたします。

また、区画整理事業等の長期化が考えられるので
あれば、今日の交通実態を踏まえ、既存の道路を拡
幅改良することも考えられますが、御所見をお伺い
いたします。

本市のまちづくりは、区画整理事業とも相まって、
着実に進展していると理解していますが、都市基盤
の整備はすべて区画整理事業とともに、同時に行
うものではないと考えます。現に市内の幾つかの地域
では地権者の理解を得られず、区画整理事業が進
まないところもあると聞いています。一方、区画整
理事業を進めている組合も、保留地の処分を含め悩
みながら取り組んでいるのも実態ではないかと思
います。そこで、それぞれの地域で基盤整備を進
めるに当たり、あらゆる手法を用いて取り組む必要
があると考えますが、どのように考えているのかお伺
いたします。

質問の3点目は、教育についてお尋ねいたします。

平成14年度から、公立小中高校で完全週休2日制
が導入され、ゆとり教育も相重なって子供の学力低
下が懸念されており、現に学校現場等から学力低下
が報告されています。そのため、学校での学習の不
足分や、授業についていく学力を補うために塾通
いをするなど、勉強の場が学校から塾に依存する傾
向が強まり、学習塾に通う子供と通わない子供との
学力に差が生じ、親の経済力が学力に反映するとの
指摘もあります。

本市では、小中一貫英語教育特区の創設や、学校
2学期制の完全実施などを来年度から導入し、新た
な試みを行うわけですが、今ある勉強をしっかりと
習熟することが最も大切であると思います。そこで、
一部小中学校で行っている少人数授業についてお尋
ねいたします。この制度は、少人数で行えば学力向
上に効果がある授業を、学校の側から指定をして行
っているわけですが、この制度を導入した経緯をま
ずお伺いいたします。

現在、本市の公立小学校では、58校中31校で算
数を、中学校では24校中17校で数学、英語、理科の
少人数授業を実施していますが、この少人数授業に
ついて教育委員会としてどのような評価をされてお
られるのか、また、現在の状況が続きますと、本市
の義務教育課程の中で、各学校により学力差が生
じると考えますが、いかがお考えなのか教育長に
お伺いいたします。

私は、効果があると思っています。学校現場から
も肯定する意見が出ているのもお聞きしています。
そうであるとすれば、教育の機会均等という立場
から、制度導入後3年間の実績と評価を踏まえ、そ
ろそろ本市教育委員会として全校への導入へ向け
努力すべきだと考えますが、御所見をお伺いいた
します。

関連して、子供の数学能力創生事業についてお尋ねいたします。先ごろ文部科学省が、高校3年生を対象にした全国規模の学力調査結果を公表しました。英語は、文部科学省のほぼ想定どおり、国語は想定を上回りましたが、数学と理科については、目標としていた正解率を大幅に下回り、学力の低下を裏づける結果となりました。また、2002年1月、2月に全国調査として実施された小中学校の学力調査でも、数学、算数の学力低下がはっきりとあらわれております。

金沢市出身で医学界のリーダーである東北大学大学院の岡本宏教授は、仙台市と金沢市を比較した上で、学問への取り組み姿勢について言えば、仙台市の方が熱心であると指摘した上で、具体的に昭和30年代までは金沢大学の学力レベルは非常に高かったが、近年脚光を浴びるのは、鏡花、秋聲、犀星に代表される文学や伝統芸能ばかりで、加賀藩時代から続いてきた博物学、医学、数学など、理系文化の伝統はどうなったのかと指摘し、大変懸念されておられます。そこで、子供の学力向上策の一環として、数学、理科離れに対する学校教育での対策をどのように考えておられるのか、教育長にお伺いいたします。

このような状況を考えてか、新年度には子ども数学能力創生事業として、おもしろ算数・数学ゼミナール、おもしろ算数・数学クラブの開講に予算が計上されていますが、大学教授の指導や著名な先生による特別講義によって、算数・数学のおもしろさや考え方の変革をもたらすことは大切なことであると考えます。近代数学の父、関口開を生んだ数学の伝統復活を目指す取り組みを期待しますが、算数・数学嫌いの子供たちがふえている中で、どのようにして興味を抱かせ、ゼミやクラブへの参加者を集め、どのような指導を行っていかれるのか、また、この取り組みからどのような成果を得ようと考えておられるのか、お伺いいたします。

富山県は大変教育熱心だとよく耳にしますし、田中耕一さんというノーベル賞受賞者を輩出しました。一方で、金沢では直木賞作家は誕生しましたが、将来偉人と呼ばれるであろう人物は、残念ながら久しくあらわれておりません。「加賀は天下の書府なり」と言われ、藩制以来の学術研究の集積から、幾多のすぐれた人材を生み出してきました。世界都市構想を掲げる本市から、ふるさと偉人館の5人の先輩方を超えるような、世界に通ずる21世紀の偉人が

誕生することを期待しますが、英才教育、人材育成についてどのように考えているのか、市長の御所見をお伺いいたします。

質問の4点目は、障害者福祉施策についてお尋ねいたします。

心身に障害を持ち、生活をされている方に対する支援制度として、これまで採用されてきた措置的な制度にかわり、昨年4月から支援費制度が導入され、早くも1年がたとうとしています。この新たな支援費制度や介護保険制度の導入をきっかけに、ノーマライゼーションプランの見直しが行われました。見直しに当たってはアンケート等を利用した当事者の意見収集や、フォーラムを開催するなど、積極的かつ真摯に取り組まれたと、私なりに評価をしているところです。

こうした状況を踏まえ、本市の来年度予算では、障害者居宅支援費が前年度の1億9,230万円から2億8,480万円と、48%の増となっており、今まで届かなかった声が届き出した結果であると考えています。しかし、各地方自治体間により支援時間の上限に差があり、本市は決して高い方ではなく、今回の予算編成においても広く浅くという印象をぬぐい去ることはできません。自立した生活を実現していくためにも、要望が多い支援費制度の支援時間に対し、さらに充実したものにすべきだと考えますが、御所見を伺います。

また、新たに策定されるノーマライゼーションプランについてであります。当プランは平成10年度に策定されたプランをさらに検討し、現状に合わせ自立と生きがい、社会参加、外出支援を重視し、働くことへの理解をさらに深めるものとお聞きしています。今回、見直しをされる新たなプランにより、今ほど申し上げた基本理念を踏まえ、ハンディーのあるなしにかかわらず、すべての方々が同じ社会の中で平等に生活できるように、行政がリーダーシップを発揮していただきたいと思っております。新たなプランの作成に当たり、現行プランでのそれぞれの項目をどのように評価され、今後に生かしていかれようとするのか、お伺いいたします。

新たなプランは現行プランからさらに一歩進み、当事者が満足できる計画にすることを最大の目標とすべきであります。そのためにも、今回策定される新たなプランづくりに当たり、より現実を直視し、当事者の現在の生活を理解していただくためにも、今後定期的に満足度に関する当事者アンケートを実

施するなどし、制度をより充実させていくことが大切であると考えますが、御所見をお伺いいたしますので私の質問を終わります。 (拍手)

○議長(安達前君) 山出市長。

[市長山出 保君登壇]

◎市長(山出保君) 6番栗森議員にお答えをします。

まず、除雪のことをごさいますして、13年度の除雪体制の検証そして来年度に向けた必要な見直し、そして除雪の機材のこと、こういうことについては土木部長からお答えをいたします。

今度混乱を招いた原因は何かということでしたが、私は北陸自動車道が通行どめになりました、国道8号に迂回した車両が集中して、そして渋滞が起こって、大きい障害になったということを挙げるができると思っております。また、国道157号などは、排水性の舗装をごさいますして、このために消雪機能が十分に発揮できなかった。こういうことも渋滞を招いた原因ではなからうかと思っております。この経験を踏まえまして、現在、国、県、道路公団、警察等と連携をして、ドライバー等への情報の提供とか、相互の応援体制とか、情報交換とか、道路の接続部での除雪のあり方等を、協議を進めておるところでございます。その成果につきまして、各道路管理者が、次の年度の除雪計画に反映をしましてまいりたいと、こう思っております。

長期的に見ると、無散水消雪装置等による連続した歩行空間の確保ができぬだろうかというお尋ねでありました。幹線道路における歩道除雪につきましては、国、県と連携をしながら、今後とも歩道除雪路線の延伸を図っていきたく、こう思っております。また、道路消雪装置の新設改良時には、歩道の消雪装置の設置にも努めていく必要があるのではなからうか、こう思っておるところでございます。

次に、社会資本の整備について、市長の思いを聞くということでありました。確かにこれまで積極的な投資を行ってまいりました結果として、道路とか、公園とか、下水道等の整備率は、よその都市に比べましてかなり高い水準にあるのではなからうかなと、そんなふうには思っております。ただ、厳しい財政環境がこれからも続くということになりますと、公共事業の量的な拡大は次第に難しくなるわけでございます。そういたしますので、これからは優先順位を決めたり、効果的に事業を進めていくことが大変大切になると思っています。駅の東広場を初め新し

い美術館など、将来にかかわる大型の仕事がおおむね終息に向かうということもありますので、これからは財政状況も勘案をし、地域経済への影響等にも配慮しながら、適正な社会資本の整備を行ってまいりたいと、このように思っております。

そこで、山間地の道路のことについてお尋ねでございました。この天池から辰巳に至る整備計画の見通しはどうかと、こういうお尋ねでありました。山間地ネットワーク道路のうちの未整備区間の天池から末、辰巳の区間でございますが、この辰巳町の地内の土地利用方針が明確でございまして、現段階での対応はなかなか難しいと、こう思っています。これからの地元の推移を見守っていきたく、ということでございます。また、現在使われております生活道路に大型車が通行をしておるということは承知をしておりますが、地形も険しいわけでございますし、現道沿いに家がございまして、拡幅に家が近接をしておさいますして、拡幅による改良も難しいというふうに考えています。

いささかつれない御返事になるわけですが、私は、基本的にはやはり辰巳の地内の機運の高まりそれから皆さんの合意形成、こういうものを待ちたいと、こう思っています。また、御尽力も賜ればと思ふ次第であります。

社会資本の整備について、いろいろな手法を駆使をして、そして取り組んでいく必要があると思うがどうかと、仰せのとおりだと思っております。いろいろな手法を多面的、重層的に組み合わせる取り組みが大事でございます。今、外環状道路をやっておるわけですが、これも国直轄、街路事業、道路事業、土地区画整理事業、こういう多様なメニューを使って、なおかつ実施主体も国であったり、県であったり、市であったり、組合であったりするわけでごさいますして、事業をやはりいろいろな方法を多様に駆使をしてやっていくということが大事だろうと。まして厳しい時代になればなるほどこうした工夫が必要になってくるということでございまして、十分心してまいりたいと、このように思います。

次に、子供の教育のことについてお触れでして、数学の能力をつける、そういう授業について御指摘でございました。どんな指導を行うのかというお尋ねでありました。お話にもございました。私も岡本先生の御意見は読みました。早くからそういう思いを私自身もいささか考えていまして、そんなことで子ども科学財団というものをスタートさせたという

こともあるわけであります。理数科の仕事は大事にしたいという思いは持っておりまして、積極的な取り組みをすべきだと思っております。今度、夏休みの期間中に、著名な数学者あるいは大学の先生を講師にお招きをしまして、子供さんが算数や数学に興味を抱くように、ゲームなんかも取り入れて楽しい内容のゼミナールを実施したいと。その後、受講者の中から、この算数・数学に関心が高うございまして、知的好奇心も旺盛だという、そういう子供さんを対象にして、後々クラブをつくって、そして月1回程度の継続的な指導をしていったらどうだろうかと、こんなことを実は考えておるわけであります。夏休みにゼミナールを開催しますが、参加者は広く公募したいと、こう思っております。

どんな成果を得ようと考えておるのかということなのですが、理科学の基礎になりますところの論理的な思考力それから仮定を立てて問題を解決する力、それから主体的に考える力、こうした力を養う機会を設けて、そして興味を深めていただくことで、金沢から将来の科学技術を担う人材が輩出されたらと、こんなことを夢見ておるわけであります。

英才教育、人材育成についての所見を問うということでございました。人材育成に当たりましては、ハンディーのある人には支援が必要です。ハンディーのある人には支援をしなければいけません。能力のある人にはチャンスを与えなければいけないと、そう思っています。広く子供さんに機会を提供して、そして知的好奇心が旺盛な子供の能力を伸ばすこと、これが行政の役割ではなかろうかと考えておるわけございまして、幸いにもこの地には大学等の高等教育機関が集積をしておりますので、その力もお借りしていきたいと、こう思っております。

次に、障害者福祉についてお尋ねでございまして、支援費制度の支援時間をさらに充実すべきでないかという御趣旨でありました。障害者の居宅支援につきましては、1年ごとの見直しが定められておりまして、現在、更新のための聞き取り調査を行っております。ヘルパーさんの派遣時間とか利用につきまして、いろいろな御要請のあることは承知しておりますが、本市にございましては特にこの希望の多いのがガイドヘルパーでございまして、ガイドヘルパーにつきまして新しい年度から養成事業を開始いたしますとともに、利用時間を含めた内容の充実を図っていききたいと、こう思っています。

す。

今のプランのいろいろな項目をどう評価して、どうこれから生かしていくのかというお尋ねでした。今のプランは、精神に障害のある方の福祉工場の整備とか、重症心身障害児の通園事業の拡充、こういう点ではまだ実施等に至っていないわけございまして、こういう点を除きますればおおむね91%の進捗率というふうに計算をしております。まあまあ評価できる点ではなかろうかと思っております。現在、現行のプランにつきまして見直し作業を進めておりまして、今月末には新しい障害者計画が策定されますので、この計画に基づいて障害のある人が安心して暮らせるように努めてまいりたいと、こう思っております。

なお、これからこのアンケートとか、そういうものを実施して、制度をさらに充実させていくことが大事だという御指摘でした。アンケート調査は、障害のある方の要望、満足度を把握する上で必要なものであるわけですが、計画の見直しの時期に実施するというのが一番いいのではなかろうかと、こう思っております。ただ、毎年市の障害者施策推進協議会では、毎年事業の実施状況を評価したり、点検したりしていただいております。市民フォーラムも継続して開催をする等いたしまして、引き続き満足度の把握に努めてこれを制度の充実につなげていきたいと、こう思っております。

以上でございます。

○議長（安達前君） 八手土木部長。

〔土木部長八手 壽君登壇〕

◎土木部長（八手壽君） 平成13年の除雪体制の一部見直しで、今冬の大雪に効果があったもの、不十分な結果に終わったものは何かの質問でございました。平成13年の大雪を教訓に、幹線道路において監視カメラ4台、積雪センサー13基を設置し、初動体制の強化を図ってまいりました。また、指定除雪路線においては68キロメートルの延伸、消雪装置の設置については延長21キロメートルの増設を図り、交通輸送の確保に努めてきたところであり、効果は十分に発揮されたと考えています。今冬の大雪については、幹線道路の除排雪作業はおおむね支障なく終了しましたが、生活道路の指定路線である第3次路線から第4次路線で圧雪状態が見られ、除排雪に時間を要した箇所もあり、委託業者の適正な配置などに課題があったと考えております。

次に、来年度に向け必要な見直しでの重点課題は

何か、また、スケジュールの見直しについてのお尋ねでございました。本年9月をめどに委託業者の除雪能力を検証し、適正な配置の見直しと生活道路である細街路の幹線について、現地調査を踏まえ、除雪対象路線に追加できないか検討してまいりたいと考えています。しかし、金沢市道 1,987キロメートルすべてを除雪することは困難でございまして、生活道路に関する除雪は今後とも引き続きまちぐるみで除雪するよう、町会連合会等を通じて地域の皆様方の御協力をお願いしていきたいと思っております。

次に、除雪機材を有する業者が各町会に伝わるよう、本市のホームページに記載するなど、周知の徹底を図る必要があると考えているが、いかがかとの質問でございました。現在、入札参加業者 391社を対象に、除雪機械台数やオペレーターの人数を再度調査しているところであります。調査結果を踏まえ、町会が行う除雪に協力できる業者をホームページ等、また、町会連合会等を通じて情報の提供ができないか、検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（安達前君） 石原教育長。

〔教育長石原多賀子君登壇〕

◎教育長（石原多賀子君） 6番粟森議員にお答えいたします。

まず、少人数授業について、この制度を導入した経緯についてお尋ねでございました。国の方針により、平成13年度から基礎学力の向上を図り、個に応じたきめ細かな指導を推進するために、県が認めた場合に少人数授業担当の教員が配置されるものでございます。すなわち、県教委から毎年校長に指導法改善のためのチーム・ティーチング、少人数授業など、指導実施計画調書を提出するよう通知がございました。最終的に県教育委員会が審査をし、決定するものでございます。

どのように評価しているのか、また、各学校により学力差が生じると考えるのがいかがかというお尋ねでございました。少人数授業の効果につきましては、個に応じた指導の充実が挙げられ、本市では平成15年度で小学校45人、中学校27人の習熟度別少人数授業担当の教員が配置され、実施されております。単年度ごとに一部の学年、一部の教科という限定的に実施されているものでございまして、習熟度別の学力についての調査結果もなく、評価は困難でございます。

全校に導入すべきと考えるのがいかがかというお尋ねでございました。習熟度別少人数授業を担当する教員は、特別に配置されているものでございます。県が審査をし、決定した学校において実施されているものでございまして、また、県の方針においては単年度を原則にしております。したがって、全校に導入することは困難であります。

なお、金沢市においては教職員の人事権、任命権を持たないため、単独では実施できないことでございます。

以上でございます。

すみません、もう1つ、数学、理科離れに対する学校教育における対策についてどのように考えているかということですが、小中学校では大学の先生が出前授業をしたり、野外の観察現場へ出向くなどの専門家招聘授業を行い、理数教育の充実を図っております。国の学力調査結果では、金沢市の子供は理科、数学とも全国を上回っております。さらに平成16年度からは、学習指導基準金沢スタンダードを実施し、科学的な思考や数学的な見方、考え方をさらに伸ばすとともに、教職員の資質向上を図ってまいりたいと考えております。

また、高峰賞などで理科や数学の学習において優秀な生徒や学校を表彰したり、金沢子ども科学財団では、学校と連携しながら科学教室やサイエンスクラブの実施も行っているところでございます。

以上でございます。